

公益目的事業

たら製鉄の歴史と技術を保存、公開、実践することで日本の鉄文化を保護継承していく活動

1) 講演会

①鉄の歴史村フォーラム 2020（鉄の歴史村文化事業；鉄の歴史村フォーラム補助金事業）

タイトル： 鉄の歴史村フォーラム 2020 「菅谷たら山内総合文化調査報告会」
開催日： 令和2年9月27日（日）
場 所： テクノアークしまね 中会議室
講 師： 第一部 角田徳幸、木本泰二郎、小池浩一郎、大津裕貴
第二部 武藤美穂子、鳥谷智文、鈴木昂太、小原 清
主 催： 公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団
共 催： 雲南市
後 援： 雲南市教育委員会、鉄の道文化圏推進協議会、雲南市たらプロジェクト会議
たら研究会、中国地方たら懇話会
業務委託： うんなんシティ TV、アエラ地域文化デザイン室
開催方法： 無観客およびオンライン
参 加： 9月27日ライブ配信視聴者 YouTube 82名
Facebook 347名
合計 429名
10月20日時点の再生回数 YouTube 401回
Facebook 599回
合計 1,000回
プレゼント応募者数 22名
雲南夢ネット放映 2月15日、16日
事 業 費：鉄の歴史村フォーラム補助金（雲南市）

開催趣旨：

菅谷たら山内は、たらとそれに付随する生業に従事する職人たちが居住していた職能集落である。このようなたら製鉄を媒介にして形成された共同体は、かつて中国山地一帯に点在していたが、たら製鉄の終焉に伴い、その多くは姿を消した。そうした中、菅谷たら山内には、製鉄炉と建物（高殿）が日本で唯一現存するとともに、職人たちが住んでいた集落の家並みも残されており、当時の生活風景を今に伝えている。しかし、現在の山内は、過疎高齢化や生活形態の変化などにより集落の存続が危ぶまれる状況にある。

こうした現状を受け、鉄の歴史村地域振興事業団は、平成28年に開催した「鉄の歴史村フォーラム2016菅谷たら山内とともに生きる」の中で、菅谷たら山内に関する史料の再調査・整理、かつての生活を知る話者への聞き取り、萱ノ選鉱場付近の整備などを早急に実施する必要を提起した。そして、翌年より菅谷たら山内活用補助金（雲南省教育委員会）を活用し、たら製鉄に関する専門家だけではない、多分野による共同調査「菅谷たら山内総合文化調査」を3年間実施し、今年3月には「菅谷たら山内総合文化調査報告書」を刊行した。このような菅谷たら山内における本格的調査は、約50年ぶりである。

50年前の調査では、歴史学・民俗学・建築学の研究者が中心となり、住民への聞き取り調査、史料調査、建造物や製鉄道具類（民具）の調査が行われ、菅谷たら山内に関する基礎的な情報が集成された。しかしこ時の調査は、研究者が山内にわずか5日間滞在して集中的に行つたものであり、議論の性急さ、史料翻刻の誤りも認められる。こうした問題点を踏まえ、今回の調査では、従来の研究の誤りを修正し、さらに深化させることと、新たな視点から菅谷たら山内を捉え返すことを目的とした。そのため、今回の調査には、歴史学・民俗学・建築学のほかに、森林科学の研究者も参加し、それぞれの知見を活かした調査と討議が行われた。これにより、山内における水力、周辺の牧野の利用など、50年前には焦点が当てられなかつた分野も調査対象に加えることが出来た。また、これまでの研究では注目されてこなかつた新たな資料を発掘することも出来た。本フォーラムでは、調査によって新たに分かつた人々の暮らし、山内の施設や住居の実態について報告し、新たな菅谷たら山内の魅力を発信していく。

第一部 菅谷たら山内と関連施設の空間的特徴（午前）

角田、木本、小池、大津各氏が登壇し、絵図、修理工事、遺構、資料統計からみた菅谷たら山内の施設、建造物、設備、牧野の魅力について紹介した。今回の調査はたら製鉄研究が進展し、産業集落としての具体像が明確になった調査で、菅谷たら山内の産業遺産としての評価を高めたものであり、さらに菅谷たら山内の今後の活用や保存の形、菅谷たら山内が追体験できる希少な場所であること、鉄生産の実態や森林利用に関するさらなる調査の必要性を提言した。

第二部 菅谷たら山内にみる人々の暮らし（午後）

武藤、鳥谷、鈴木、小原各氏が登壇し、住居、当時の規約、生活様式、仕事や暮らしを取り巻く人々や環境からみた当地で営まれてきた人々の暮らしを紹介した。狭義の製鉄業史だけではなく、人々の生活に注目し、これまでの研究に欠けていた新たな視点で調査を実施したこ

令和2年度 公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団 事業報告書

とを主張し、菅谷たら山内は産業遺産・文化財が現存するだけでなく、現在も生活空間であり、市民、観光客、関係者、研究者、行政への理解の必要性を提言した。

当日の様子



チラシ・ポスター

島根県雲南市吉田町

鉄の歴史村フォーラム 2020

オンライン報告会開催

山内菅谷たらたら

すがや
さんない

「菅谷たらたら山内総合文化調査報告会」

9/27 第一部：10:00～
第二部：13:00～
[日]

YouTube / facebook ライブ配信

視聴方法は [\(このまま\)](#) で検索

10:00 開会あいさつ 第一部

10:10 菅谷たらたら山内総合文化調査の概要

10:20 [発表] 「菅谷野山内の施設」 尾田徳幸

10:40 [発表] 「菅谷たらたら山内の建物の特徴について」 木本泰二郎

11:00 [発表] 「寄付たらたらに於いて水力発電の意味するところ」 小川高一郎

11:20 [発表] 「菅谷たらたら山内を支えた牧野」 大増裕貴

13:00 [発表] 「鐵道建築としての菅谷たらたら山内とその居住空間」 佐藤英信子

13:20 [発表] 「五人組規約・横風規約にみえる人々の暮らし」 尾谷智文

13:40 [発表] 「菅谷たらたら山内の生活誌 昭和2・30年代を中心に」 竹木弘太

14:00 [発表] 「昭和における菅谷たらたら山内に対する影響」 小原勇

*ライブ配信による場合でプロフィルの一覧表示の場合もございます。

主催：公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団

共催：雲南市

後援：雲南市教育委員会、雲南市文化振興協議会、雲南市たらたらプロジェクト企画、中濃地方たらたら研究会

問い合わせは

公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団

TEL: 0854-74-0311

島根県雲南市吉田町吉田 892番地 | <http://www.tetsunorekishimura.or.jp/>

一
巻
出し発表!

②博物館講座

いいね！TATARA 部（たたら文化発信事業；菅谷たら山内活用事業補助金の一部）

新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、大幅に活動を自粛した。主な活動は公開展示施設の展示替え、萱野鉄穴場の整備を行った。

趣旨 たら文化に関する市・県民協働の取り組みのみならず、市に隣接する文化施設関係者や自治体と研究会などを実施し、接続性のある事業活動を目指す。

「いいね！TATARA 部」とは、平成30年度事業「雲南たらナイト」のネクストステージ事業で、「こんなことできたらいいな」のファーストステージ事業の中から生まれたアイデアを形にした集まりである。「いいね！TATARA」を合言葉に、研究会や探検会を重ね、その成果を企画展などでアウトプットしていく。

2) 体験事業

和鋼生産研究開発施設とたら鍛冶工房を会場に、ものづくり大学（小たら操業、ペーパーナイフづくり体験）、近代たら操業を実施した。

ものづくり大学の小たら操業では、吉田小学校および田井小学校の総合的な学習への協力として実施、小たら操業、焼き入れ体験、刃物づくり体験を行った。

近代たら操業は、新型コロナウィルス感染症拡大の影響で、計画では3回実施に予定であったが、株式会社田部様と一般参加者で1回実施した。（株式会社田部様の2回目、日本鍛冶学会様の操業は中止した。）

ペーパーナイフづくり体験では、新型コロナ感染症拡大により、中止とした期間があったこともあり、61名の参加にとどまった。（令和元年度は186名）

①ものづくり大学

1. 近代たら操業（たら文化発信事業；菅谷たら山内活用事業補助金※近代たら操業費用の一部）

令和2年11月11日（水）から11月15日（日）にかけ、株式会社田部様の近代たら操業を実施した。事業計画では、他に株式会社田部様、日本鍛冶学会様の操業を各1回予定していたが、新型コロナウィルス感染症拡大により中止した。

11月に実施した株式会社田部様の操業については下記のとおりである。

実施内容 : 11月11日（水） 灰すらし作業4回

11月12日（木） 灰すらし作業2回、土づくり、元釜・中釜設置乾燥

11月13日（金） 上釜施工、乾燥

11月14日（土） 火入れ

11月15日（日） 鋼出し

原料投入量： 砂鉄：470 kg、木炭：645 kg

鋼量 : 129 kg (南北 100cm、東西 50cm)

事業費 : 操業実費分を株式会社田部様が負担、作業賃金、指導者経費等は菅谷たたら山内活用補助金で実施。



2. 小だたら操業

令和2年度事業計画では、永田式たたらを取り入れたツアー型の小だたら操業を計画していたが、新型コロナウィルス感染症拡大によりキャンセルとなった。

雲南省吉田町内の吉田小学校及び田井小学校の総合的な学習での小だたら操業のみを実施した。内容は下記のとおりである。

公益目的事業

たら製鉄の歴史と技術を保存、公開、実践することで日本の鉄文化を保護継承していく活動

1) 講演会

①鉄の歴史村フォーラム 2020（鉄の歴史村文化事業；鉄の歴史村フォーラム補助金事業）

| | | | |
|---------------|-------------------------------------------------------|-----------|------|
| タイトル： | 鉄の歴史村フォーラム 2020 「菅谷たら山内総合文化調査報告会」 | | |
| 開催日： | 令和2年9月27日（日） | | |
| 場 所： | テクノアークしまね 中会議室 | | |
| 講 師： | 第一部 角田徳幸、木本泰二郎、小池浩一郎、大津裕貴 第二部 武藤美穂子、鳥谷智文、鈴木昂太、小原 清 | | |
| 主 催： | 公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団 | | |
| 共 催： | 雲南市 | | |
| 後 援： | 雲南市教育委員会、鉄の道文化圏推進協議会、雲南市たらプロジェクト会議 たら研究会、中国地方たら懇話会 | | |
| 業務委託： | うんなんシティ TV、アエラ地域文化デザイン室 | | |
| 開催方法： | 無観客およびオンライン | | |
| 参 加： | 9月27日ライブ配信視聴者 | YouTube | 82名 |
| | | Facebook | 347名 |
| | | 合計 | 429名 |
| 10月20日時点の再生回数 | YouTube | 401回 | |
| | Facebook | 599回 | |
| | 合計 | 1,000回 | |
| プレゼント応募者数 | | 22名 | |
| 雲南夢ネット放映 | | 2月15日、16日 | |
| 事 業 費： | 鉄の歴史村フォーラム補助金（雲南市） | | |

開催趣旨：

菅谷たら山内は、たらとそれに付随する生業に従事する職人たちが居住していた職能集落である。このようなたら製鉄を媒介にして形成された共同体は、かつて中国山地一帯に点在していたが、たら製鉄の終焉に伴い、その多くは姿を消した。こうした中、菅谷たら山内には、製鉄炉と建物（高殿）が日本で唯一現存するとともに、職人たちが住んでいた集落の家並みも残されており、当時の生活風景を今に伝えている。しかし、現在の山内は、過疎高齢化や生活形態の変化などにより集落の存続が危ぶまれる状況にある。

こうした現状を受け、鉄の歴史村地域振興事業団は、平成28年に開催した「鉄の歴史村フォーラム2016菅谷たら山内とともに生きる」の中で、菅谷たら山内に関する史料の再調査・整理、かつての生活を知る話者への聞き取り、萱ノ選鉱場付近の整備などを早急に実施する必要を提起した。そして、翌年より菅谷たら山内活用補助金（雲南省教育委員会）を活用し、たら製鉄に関する専門家だけではない、多分野による共同調査「菅谷たら山内総合文化調査」を3年間実施し、今年3月には「菅谷たら山内総合文化調査報告書」を刊行した。このような菅谷たら山内における本格的調査は、約50年ぶりである。

50年前の調査では、歴史学・民俗学・建築学の研究者が中心となり、住民への聞き取り調査、史料調査、建造物や製鉄道具類（民具）の調査が行われ、菅谷たら山内に関する基礎的な情報が集成された。しかしこの時の調査は、研究者が山内にわずか5日間滞在して集中的に行なったものであり、議論の性急さ、史料翻刻の誤りも認められる。こうした問題点を踏まえ、今回の調査では、従来の研究の誤りを修正し、さらに深化させることと、新たな視点から菅谷たら山内を捉え返すことを目的とした。そのため、今回の調査には、歴史学・民俗学・建築学のほかに、森林科学の研究者も参加し、それぞれの知見を活かした調査と討議が行われた。これにより、山内における水力、周辺の牧野の利用など、50年前には焦点が当てられなかつた分野も調査対象に加えることが出来た。また、これまでの研究では注目されてこなかつた新たな資料を発掘することも出来た。本フォーラムでは、調査によって新たに分かった人々の暮らし、山内の施設や住居の実態について報告し、新たな菅谷たら山内の魅力を発信していく。

第一部 菅谷たら山内と関連施設の空間的特徴（午前）

角田、木本、小池、大津各氏が登壇し、絵図、修理工事、遺構、資料統計からみた菅谷たら山内の施設、建造物、設備、牧野の魅力について紹介した。今回の調査はたら製鉄研究が進展し、産業集落としての具体像が明確になった調査で、菅谷たら山内の産業遺産としての評価を高めたものであり、さらに菅谷たら山内の今後の活用や保存の形、菅谷たら山内が追体験できる希少な場所であること、鉄生産の実態や森林利用に関するさらなる調査の必要性を提言した。

第二部 菅谷たら山内にみる人々の暮らし（午後）

武藤、鳥谷、鈴木、小原各氏が登壇し、住居、当時の規約、生活様式、仕事や暮らしを取り巻く人々や環境からみた当地で営まれてきた人々の暮らしを紹介した。狭義の製鉄業史だけではなく、人々の生活に注目し、これまでの研究に欠けていた新たな視点で調査を実施したこ

令和2年度 公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団 事業報告書

とを主張し、菅谷たら山内は産業遺産・文化財が現存するだけでなく、現在も生活空間であり、市民、観光客、関係者、研究者、行政への理解の必要性を提言した。

当日の様子



チラシ・ポスター

島根県雲南市吉田町

鉄の歴史村フォーラム 2020

オンライン報告会開催

菅谷たらたら 山内

菅谷たらたら 山内総合文化調査報告会

9/27 第一部：10:00～
第二部：13:00～
[日]

YouTube / facebook ライブ配信

視聴方法は「鉄の歴史村」で検索

10:00 開会あいさつ 第一部

10:10 菅谷たら山内総合文化調査の概要

10:20 [発表] 「菅谷郷山内の施設」 角田徳幸

10:40 [発表] 「菅谷たら山内の建物の特徴について」 大本孝二郎

11:00 [発表] 「菅谷たら山内に於いて水力送風の実験するところ」 小池浩一郎

11:20 [発表] 「菅谷たら山内を支えた牧野」 大増裕貴

13:00 [発表] 「菅谷郷としての菅谷たら山内とその居住空間」 武藤英子

13:20 [発表] 「五人組規約・横風規約にみえる人々の暮らし」 吉谷哲文

13:40 [発表] 「菅谷たら山内の生活記 昭和2、30年代を中心に」 佐木秀太

14:00 [発表] 「昭和における菅谷たら山内に対する認識」 小原謙

*ライブ配信による座席でプログラムの一覧変更の場合もございます。

主催：公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団
共催：雲南市
後援：雲南市教育委員会、鉄の歴史文化遺産技術協会、雲南市たららプロジェクト企画、中津地方たらら相談会

お問い合わせは
公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団
TEL：0854-74-0311
島根県雲南市吉田町吉田 882番地 | <http://www.tetsunorekishimura.or.jp/>

一挙
発出し発表！



菅谷郷は吉田町「菅谷たらたら山内」は、たららと共に暮らす生態系を守るために、たららたちが居住していた無人集落です。このような井筒体系は、かつて中津山地一帯に点在していましたが、たるらの移動の跡に伴い、その多くは姿を消してしまった。しかし、菅谷たらたら山内には、菅谷郷と稱する日本では唯一現存するところに、たららたちが住んでいた菅谷郷の歴史が今も残されています。菅谷郷の生活文化を今に伝えていきます。現存する多種多様な史跡群は、山内という生業空間で維持されています。これまで「菅谷たらたら山内総合文化調査」を3年間実施してきた、このフォーラムでは新たに分かった人々の暮らしや山内の歴史や技術についてお伝えいたします。

②博物館講座

いいね！TATARA 部（たたら文化発信事業；菅谷たたら山内活用事業補助金の一部）

新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、大幅に活動を自粛した。主な活動は公開展示施設の展示替え、萱野鉄穴場の整備を行った。

趣旨 たたら文化に関する市・県民協働の取り組みのみならず、市に隣接する文化施設関係者や自治体と研究会などを実施し、接続性のある事業活動を目指す。

「いいね！TATARA 部」とは、平成30年度事業「雲南たたらナイト」のネクストステージ事業で、「こんなことできたらいいな」のファーストステージ事業の中から生まれたアイデアを形にした集まりである。「いいね！TATARA」を合言葉に、研究会や探検会を重ね、その成果を企画展などでアウトプットしていく。

2) 体験事業

和鋼生産研究開発施設とたたら鍛冶工房を会場に、ものづくり大学（小だたら操業、ペーパーナイフづくり体験）、近代たたら操業を実施した。

ものづくり大学の小だたら操業では、吉田小学校および田井小学校の総合的な学習への協力として実施、小だたら操業、焼き入れ体験、刃物づくり体験を行った。

近代たたら操業は、新型コロナウィルス感染症拡大の影響で、計画では3回実施に予定であったが、株式会社田部様と一般参加者で1回実施した。（株式会社田部様の2回目、日本鍛冶学会様の操業は中止した。）

ペーパーナイフづくり体験では、新型コロナ感染症拡大により、中止とした期間があったこともあり、61名の参加にとどまった。（令和元年度は186名）

①ものづくり大学

1. 近代たたら操業（たたら文化発信事業；菅谷たたら山内活用事業補助金※近代たたら操業費用の一部）

令和2年11月11日（水）から11月15日（日）にかけ、株式会社田部様の近代たたら操業を実施した。事業計画では、他に株式会社田部様、日本鍛冶学会様の操業を各1回予定していたが、新型コロナウィルス感染症拡大により中止した。

11月に実施した株式会社田部様の操業については下記のとおりである。

実施内容 : 11月11日（水） 灰すらし作業4回

11月12日（木） 灰すらし作業2回、土づくり、元釜・中釜設置乾燥

11月13日（金） 上釜施工、乾燥

令和2年度 公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団 事業報告書

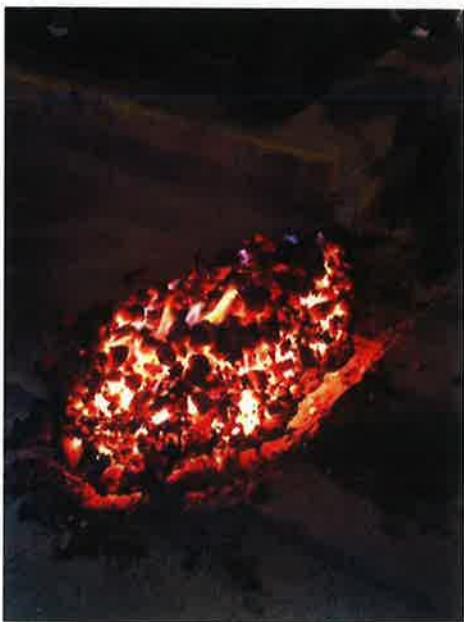
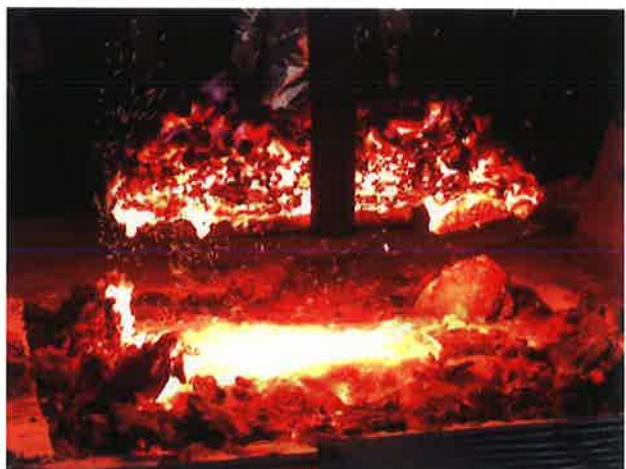
11月14日（土） 火入れ

11月15日（日） 錫出し

原料投入量： 砂鉄：470 kg、木炭：645 kg

錫量 : 129 kg (南北 100cm、東西 50cm)

事業費 : 操業実費分を株式会社田部様が負担、作業賃金、指導者経費等は菅谷たたら山内活用補助金で実施。



2. 小だたら操業

令和2年度事業計画では、永田式たたらを取り入れたツアー型の小だたら操業を計画していたが、新型コロナウィルス感染症拡大によりキャンセルとなった。

雲南市吉田町内の吉田小学校及び田井小学校の総合的な学習での小だたら操業のみを実施した。内容は下記のとおりである。

体験者：吉田小学校・田井小学校5、6年生

操業日：10月23日（金）

操業記録：砂鉄：20kg（10kgは児童が採取）、木炭：31kg

鉛量：2.5kg

参加数：18名

事業費：吉田小学校および田井小学校負担

ほか：焼き入れ体験、刃物づくりを実施し、仕上げをして引き渡しをした。



3. 鍛冶体験

五寸釘を使った手軽にできるペーパーナイフづくり体験を受けられた。コロナ禍により、受け入れは61名に留まった。（令和元年度 186名）

島根県および島根県東部勤労者共済会は、体験者に対し、体験料の補助を行われ、全参加者のうち24名がこれを利用した。

令和2年度 公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団 事業報告書

体験者数 : 61名

| | |
|-----------------------|-----|
| 内訳 ; 正規料金（2,000円）での体験 | 37名 |
| しまねプレミアム観光券利用での体験 | 8名 |
| 島根県東部勤労者共済会助成での体験 | 16名 |

4. うんなんこども冒険団（菅谷たら山内に生息するオオサンショウウオの保護活動）・・・中止

令和2年度事業計画では、菅谷たら山内に生息するオオサンショウウオの生息調査、繁殖確認を実施し、観察会を行う予定であったが、新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、実施を断念した。

5. 鉄・体感イベント・・・中止

令和2年度におけるイベントの実施は、新型コロナウィルス感染症拡大の推移を見ながら実施の判断する予定としていたが、収束の見込みが立たなかつたため実施を断念した。

ア) 「TIE」をコンセプトに菅谷たら山内元小屋活用事業

菅谷たら山内の元小屋を会場とした神楽公演、出店利用など。

イ) みんなのたらまつり

地域住民、周辺地域とのコラボレーションによるイベントを開催することで、たらまつりやたら製鉄に関連する地域、団体の活動を知つてもらう機会とする。

- ・みんなでたらまつり体験
- ・民俗芸能の上演
- ・周辺のたら製鉄に関する地域とのコラボ、出店

3) 公開展示施設の運営

平成30年度から令和2年度までの3か年度において、菅谷たら山内及び周辺施設、吉田町郷土文化伝習施設（鉄の歴史博物館）、鉄の未来科学館、地域特産品処理加工施設の指定管理業務を行つた。

令和2年度の公開展示施設の運営に関しては、県をまたぐ往来の自粛等、新型コロナウィルス感染症拡大の影響が大きく、国の緊急事態宣言下では4月14日から5月18日までの間、全施設を休館とした。

また、トワイライトエクスプレス瑞風の運航中止、ツアーの中止が相次ぎ、団体客の来館はほぼ無い状況であった。

各館での企画展も、入場の制限、感染拡大防止のため、中止またはオンラインでの実施とな

つた。

これらコロナウイルス関連による事業収益の減、雇用の持続のため、持続化給付金、雇用調整助成金、雲南市の協力金の支給を得た。

なお、令和2年度をもって鉄の未来科学館および地域特産品処理加工施設の指定管理は終了した。

1. 企画展の実施

ア) 「最後の山子 炭を焼く」オンライン配信

内容：おうちミュージアムのコンテンツで使い、炭焼きの様子を動画に撮り、YouTube およびホームページで公開した。



イ) オンライン企画展「幕末明治 吉田の町と人々」

・第1回 幕末における町のようすー若槻屋文書からー

内容：若槻屋文書から判明した幕末の吉田町の様子を国立松江工業高等専門学校人文科学科教授で、当事業団理事の鳥谷智文氏が解説。

講師：鳥谷智文氏



鉄の歴史博物館オンライン企画展「幕末明治 吉田の町と人々」より第1回 「幕末における町のようすー若槻屋文書からー」 講師：鳥谷智文先生

133回再生 2021/03/01

14 4 10 0 14 分 34 秒 ...

令和2年度 公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団 事業報告書

・第2回 吉田町の歴史探訪

内容：鳥谷智文の解説を聞きながら鉄師田部家にゆかりのある吉田町内の各所を辿る町歩きの様子を配信した。

講師：鳥谷智文氏

出演：内藤芳文氏、井上量夫氏、朝日光男、田部富雄



鉄の歴史博物館オンライン企画展「幕末明治 吉田の町と人々」より第2回 「吉田町の歴史探訪」

137回視聴・2021/03/15

1,2,0,共有,保存,...

・第3回 吉田町衆と小鍛冶座

内容：雲南省木次町の鍛冶屋を訪れ、明治期の経営状況について鳥谷智文氏が解説した。

講師：鳥谷智文氏

出演：上代鍛冶屋さん、八日市地域づくりの会ほか



鉄の歴史博物館オンライン企画展「幕末明治 吉田の町と人々」より第3回 「吉田町衆と小鍛冶屋」

66回視聴・2021/03/29

1,2,0,共有,保存,...

4) 調査研究・資料収集 (たら文化発信事業; 菅谷たら山内活用事業補助金)

雲南市の「菅谷たら山内活用事業補助金」で平成 29 年度から実施している菅谷たら山内の総合文化調査および比較研究について引き続き着手した。

①菅谷たら山内とその周辺におけるたら製鉄の比較研究

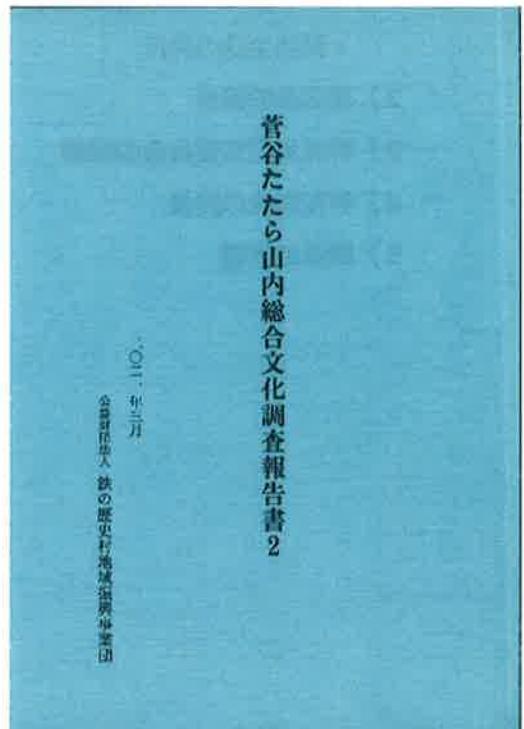
菅谷たら山内とその周辺における、たら製鉄と医療、町衆、人生儀礼、他の鉄師との関係性を調査し、報告書にまとめた。

令和 2 年度において、調査継続中で報告書にまとめられなかった研究については、令和 3 年度の成果として報告書を発行したい。

②所蔵品の調査に関する手続きの開始

当事業団が管理運営する指定管理施設に所蔵されている寄贈品、寄託品等の資料について、調査を開始するための手続きを行った。

令和 3 年度から順次着手していく。



③調査研究・資料収集に関する公益事業申請・認定

これまで、公開展示施設の運営の中で行ってきた調査研究・資料収集の事業について、令和 3 年 3 月 26 日、正式に公益事業として認定申請の手続きを行った。これについて、島根県より令和 3 年 4 月 1 日付で公益事業として認定された。

5) 委託業務

- ア) 菅谷たら山内および周辺施設
- イ) 鉄の歴史博物館
- ウ) 鉄の未来科学館
- エ) 地域特産品処理加工施設

博物館等公開展示施設における商品の販売

- 1) オリジナル商品の開発、販売**
- 2) 委託商品販売**

管理部門

1) 賛助会員の確保と普及活動（賛助会員数：個人 106、団体 7）

- ・来訪者、体験事業、フォーラム参加者への働きかけ
- ・ホームページ、賛助会誌での事業 PR
- ・賛助会誌の発行

2) 理事会の開催

3) 評議員選定委員会の開催

4) 評議員会の開催

5) 職員の退職